

経済・政治研究所長 殿

近代関西経済の発展とアジア・アフリカの国際関係史 研究班

主 幹 西村 雄志

## 研究班活動報告書

2021年度 近代関西経済の発展とアジア・アフリカの国際関係史 研究班の研究活動結果を、次のとおり報告いたします。

|               |  |
|---------------|--|
| 研究テーマ         | 近代関西経済の発展についてアジアとアフリカの国際関係から考察する。  |
| 研究成果の概要及び活動報告 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Shigehiro Nishimura, "Patents in Business History: The Dimensions of Patent Management Study", 2nd World Congress of. Business History, 2021年9月10日、オンライン開催。</li> <li>・ 西村成弘「大正・昭和初期大阪における発明活動」関西大学経済・政治研究所第245回産業セミナー、2021年7月21日、関西大学梅田キャンパス。</li> <li>・ 西村成弘「第6章 知的財産権と経済効果」経営史学会第32回東北ワークショップ、2021年6月24日 オンライン開催</li> <li>・ Takeshi Nishimura "How did the Gold-Exchange Standard contribute to the Expansion of the Intra-Asian trade before the First World War?", Baltic Connections Conference 2021, 2021年4月20日、オンライン開催。</li> <li>・ Takeshi Nishimura "The Businesses of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in Southeast Asia at the Turn of the Twentieth Century", 2nd World Congress of. Business History, 2021年9月10日、オンライン開催。</li> <li>・ Takeshi Nishimura, "The role of the international banks under the monetary reforms in Siam, 1888-1913.", Money Doctors' Workshop (organized by Masato Shizume, Anders Ögren and two scholars)、2022年2月10日、オンライン開催。</li> </ul>  |
| 著書            |  |
| 分担執筆・論文等      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木山実 (2021)「陶磁器業界における技術革新—トンネル窯の導入に注目して—」『経営史学』第56巻第2号。</li> <li>・ 木山実 (2021)「(書評) 沢井実著『現代大阪経済史—大都市産業集積の軌跡—』」『経営史学』第56巻第3号。</li> <li>・ 木山実 (2022)「三井物産の豪州上陸と羊毛パイヤーの育成」若林幸男・大島久幸・山藤竜太郎編『国際人的資源管理の経営史—戦前期日本商社の豪州羊毛ビジネス—』日本経済評論社、第3章第1節。</li> <li>・ 木山実 (2022)「高島屋飯田の豪州上陸」若林幸男・大島久幸・山藤竜太郎編『国際人的資源管理の経営史—戦前期日本商社の豪州羊毛ビジネス—』日本経済評論社、第4章第1節。</li> <li>・ 石川亮太 (2021)「交隣と貿易：開港前後の海藻輸出」岡本隆司編『交隣と東アジア』名古屋大学出版会、80～110頁。</li> <li>・ 石川亮太 (2021)「交隣と条約：「自由貿易」と商業税をめぐる日朝交渉」岡本隆司編『交隣と東アジア』名古屋大学出版会、178～207頁。</li> <li>・ 石川亮太 (2022)「在日コリアン1世女性のライフ・ヒストリー：全永女(1932年生)の手記を中心に」『立命館経営学』60巻5号、143-179頁。</li> <li>・ Donzé, Pierre-Yves and Shigehiro Nishimura (2022) "Patent management and the globalization of firms: the case of Siemens (1890–1945)", <i>Journal of Management History</i>, Vo. 28, No. 2, pp. 199-214.</li> <li>・ 西村成弘 (2022)「富士電機の特許管理 1923-1941—技術情報の流れの組織化と研究開発—」『経営史学』第56巻第4号、1-28ページ。</li> <li>・ 西村成弘 (2021)「無線通信ネットワーク間競争と国際技術移転—英マルコーニ社の特許管理 1896-1918—」『関西大学商学論集』第66巻第2号、25-44ページ。</li> <li>・ 西村成弘 (2021)「第2次産業革命」社会経済史学会『社会経済史学事典』丸善出版、120-121ページ。</li> <li>・ 西村雄志 (2021)「金融と物価」社会経済史学会『社会経済史学事典』丸善出版、196-198ページ。</li> <li>・ 西村雄志 (2021)「インドの金融」社会経済史学会『社会経済史学事典』丸善出版、212-214ページ。</li> </ul> |

|                      |  |
|----------------------|--|
|                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・西村雄志 (2021)「本位通貨制度と国際貿易」社会経済史学会『社会経済史学事典』丸善出版、620-622 ページ。</li> <li>・西村雄志(2021)「日本銀とアジア域内交易」平井健介・島西智輝・岸田真編『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房、10-13 ページ。</li> <li>・西村雄志(2021)「銀本位制の採用」平井健介・島西智輝・岸田真編『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房、88-91 ページ。</li> </ul>  |
| 新聞・メディア掲載その他         |  |
| 調査等                  |  |
| <b>活動内容の総括</b>       | <p>今年度も新型コロナの混乱が続いた事もあり、対面式の研究会の開催は叶わなかった。しかしながら、リモートのかたちで2名の研究者を招聘して研究会を開催することが出来た。第1回は兵庫県立大学の易星星先生、第2回は南山大学の澤井実先生に御願ひした。易先生には両大戦間期に関西に進出した中国系銀行の活動と大阪の川口や神戸に居住していた中国系商人の人々の関係を中心に戦前の関西経済と中国との関係について御報告頂いた。また澤井先生からは戦後の台湾と関西経済の関係性について、労務管理や技術管理の観点から最新の研究成果を御発表頂いた。いずれも本研究班の研究テーマに大変意義深いものであり、研究員のいずれも大変勉強になった。加えて香港大学の名誉教授である李培徳先生はじめ、他大学の研究者にも多く参加して頂き、今後の研究班の活動がより幅広く展開できる可能性も感じた。</p>                            |
| <b>次年度に向けての計画・展望</b> | <p>次年度は新型コロナの収束をある程度的前提として研究会等の活動を進めていきたい。研究会の形式としても対面式の開催の回数を増やせればと考えている。しかし、交通費の支弁なしに東京や海外の研究者を招聘出来るメリットもあり、リモート開催は今後も併用していく予定である。研究会としては外部の招聘を中心出来るだけ多くの研究会を組織したい。</p> <p>本研究班は、研究期間終了後に論文集として成果を刊行したいと考えている。そのため研究班の班員ならびに非常勤研究員だけでなく、出来るだけ多くの研究者に参加してもらえ様、研究発表の機会を設けていく所存である。若手からベテランまで幅広く研究者に寄稿して頂き、近代関西経済とアジア・アフリカの国際関係に関する多様な研究テーマで論文集を纏めたいと考える。そのためにも次年度は私どもの研究班の研究テーマに隣接する様々な内容について、出来るだけ多く学ぶ機会を設けたいと思う。</p> |